

除けてやってこられたのだなあという印象を受けた。お二人のような先人がおられたおかげで、現在では、男女の差別を感じることなく研究ができる環境が整ってきたのだと思う。（私は研究職に就いているわけではないので、実状には疎いが、少なくとも、今回の夏の学校には多くの女性が参加されていた。）本来は直接お礼を言うべきところであるが、ここで感謝の意を表したい。

最後に、漆原先生、太田先生、そして今回のJGU企画幹事の皆様には、貴重な機会を設けてくださり、ありがとうございました。

JGU 夏の学校に参加して 関 有沙（東京大学大気海洋研究所・博士課程）

JGU 夏の学校には、今年が初めての参加でした。私は、地球化学、特に古気候分野の研究をしていますが、石灰岩（サンゴや鍾乳石など）の年代測定を主な研究対象としているため、漆原先生の「カルスト地形」という題名に心引かれ、今回の夏の学校に参加することを決めました。

他分野からの参加でしたが、もともと地形学が好きなこともあって、講義は大変楽しいものでした。1日目の漆原先生の講義は、題名からの予想以上に興味のあるものばかりで、フィールドでの写真を見せながら体験を交えてお話をしてくださるのはとても楽しく、本当に勉強になる1日でした。特に、南大東島の形成史と、鍾乳石の年代の話はとてもおもしろく、様々な観察事実が1つにまとまるとき、はっとさせられる驚きがありました。私も、将来このような驚きのある研究をしたいと思い、「まずは良いテーマを見つけることが大切」という先生の言葉が心に残りました。

2日目の太田先生の講義では、活断層、海成段丘、さんご礁段丘などの変動地形について、写真などで実際の例を示しながら講義が進みました。その中で、Huon 半島での調査や、津波で打ち上げられたサンゴ巨礫の話など、思いがけず私の研究にも関連する話題が挙がり、分野のつながりを実感するとともに、先生の研究の幅広さに感銘を受けました。研究分野に拘泥せず、広い視点を持つことが重要だと感じました。

また、講義の内容だけではなく、女性研究者の大先輩のお話を聞いたことは、私にとって大きな刺激となりました。女性研究者がほとんどいなかった時代の大先輩方の努力があってこそ、今の私たちの環境があるのだと感じました。それとともに、現在でも女性であることで気を使う野外調査においても、長年に渡って活躍されている様子を目の当たりにし、大変に刺激を受けました。

多くの知識を得ただけではなく、研究者としての姿勢や考え方を含め、とても勉強になった2日間でした。講師の漆原和子先生、太田陽子先生を始め、このような講義を企画していただいたJGUの皆様感謝申し上げます。